

先進医療“大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術” 消化器内科 中村 剛之

この度当院で、先進医療の一つとして「大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（以下、大腸ESD）」が認可されました。

大腸腫瘍に対する内視鏡的治療として、内視鏡的粘膜切除術（EMR）（図1）が以前より盛んに施行されてきました。

図1 EMRの手技



粘膜下に局注 金属の輪を留置 輪を絞めながら焼灼 切除病変を回収

図2 ESDの手技

- (1) マーキング
内視鏡を胃の中に入れ、病変の周囲に切り取る範囲の目印をつける
- (2) 局注
粘膜下層に薬剤を注入して浮かせた状態にする
- (3) 切開
マーキングを切り囲むようにナイフで病変部の周囲の粘膜を切る
- (4) 粘膜下層の剥離（はくり）
専用ナイフで病変を少しずつ慎重にはぎとる
- (5) 切除完了
ナイフを使って最後まで剥離（はくり）する、または最後にスネアで切り取る
- (6) 止血
切り取ったあとの胃の表面に止血処置を施し、切り取った病変部は病理検査に出すため回収する

大腸内は凹凸やヒダが多いので、大きな病変をEMRで治療するとしばしば分割切除となっていました。分割切除になりますと、微小な取り残しから再発することが問題となります。そこで、胃腫瘍に対してH18年から保険適応となっていたESDの手技（図2）を大腸に応用することが考えられました。

大腸は胃と異なり、壁が非常に薄いため穴が開く危険性が高く、緊急開腹手術になることがあります。このような背景から大腸ESDは現在のところ一定の条件を満たした施設でのみ、先進医療として行うことができることとなっています。

大腸ESDでは大きな病変でも一括切除できるため、再発のリスクが低く、また病変の広がりや癌か否かの正確な診断が可能です。開腹手術に比べて体への負担は少なく、入院期間もおよそ半分の約1週間に短縮されます。

当院では大腸腫瘍の治療に際し、内科と外科で協議したうえで治療方法を決定し、チームで取り組んでおります。

ご不明な点は内科もしくは外科外来までお気軽にご相談ください。



理念

基本方針

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」の中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者様の権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。



イメージキャラクター
がんろっこ



ピンクを基調にした優しい色合いの新しい外来化学療法室



窓のある明るいベッド環境 各ベッドに床頭台とテレビを設置

当院の化学療法室(「中央処置センター」)がバージョンアップして生まれ変わりました。場所も外来棟4階に移設し、名称も「**外来化学療法室**」と一新し、落ち着いて治療を受けていただけるよう、広くて快適な環境を整えました。



不安に思うことやご質問にお答えするプライバシーに配慮した面談室

新しい外来化学療法室は、およそ**200㎡**もの広さがあります。そこに**13のベッド**と**7つのリクライニングチェア**を備え、各ベッドスペースには十分な広さを確保しました。各ベッド、リクライニングチェアには**液晶テレビ**を装備し、長時間の治療でも、できるだけ快適に受けていただける治療環境を整えました。各ベッドには専用の**電子カルテ端末**を設置し、患者さまの情報をリアルタイムで院内共有することができます。また**待合室**も拡充し、治療待ちの時間や付き添いの方にもゆったりとした環境と化学療法に関する情報を提供いたします。さらに、**専用診察室、指導室、面談室、カンファレンス室、外来化学療法室専用の調製室**等も新しく備えました。医師、看護師、薬剤師が協力し、患者さまに最適で最良のがん治療を提供するため努力いたします。



長時間の治療にも快適に治療を受けていただけるリクライニングチェア



がん治療の各種情報提供スペースを兼ねた広い待合スペース
医療用ウィッグも展示

これまで以上に
安全で良質ながん治療を
提供いたします



独立行政法人 労働者健康福祉機構 **関西ろうさい病院**

尼崎市稲葉荘3-1-69 TEL 06-6416-1221(代)

HP <http://www.kanrou.net/>

携帯版HP <http://kanrou-mobile.jp/>

ブログ <http://kanrou.blog106.fc2.com/>

発行人 林 紀夫 編集人 堤 圭介

